平成30年度第1回太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会（第1回水管理部会同時開催）の開催結果

太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会
事務局

アユを増やすための方策について

資料1

○短期・中期的な方策

・平成31年度以降は、太田川漁協が中心となって取組を継続し、そのフォローアップを実施。

→ 平成30年度の取組状況は、議題1で

○長期的な方策（高瀬堰の運用）

・本運用を見据え、試験運用を継続し、データ（流況、流下仔魚、産卵規模等）の蓄積を図る。

→ 平成30年度の試験運用と効果検証調査の結果は、議題1及び2で

○長期的な方策（祇園水門・大芝水門の運用）

・仔魚の流下促進という目的に絞り、塩水遡上の影響が少ない下げ潮時に試験運用を実施できないか、今後、関係機関と調整を図る。

→ 今後の調整スケジュールは、議題4で

○目標値の検討

・太田川の河川規模を考慮した上で、流下仔魚数、遡上数及び親魚数に対する目標数値を検討する。

→ 目標値の検討結果は、議題3で

シジミを増やすための方策について

○短期・中期的な方策

- 塩ビ管等を活用し、母貝団地を整備するという方針で進める。
- 出水によるシジミの流失対策が課題。
- リスク分散のため、母貝団地の候補地3か所の中でも、河床の高さや流況を考慮した上で、設置場所の検討が必要。

→ 平成30年度の取組状況は、議題2で

→ 今後の方針については、議題4で

その他の検討事項について

- 国土交通省が測量した川底の等高線図データと実際の漁場を比較する。

→ 等高線図データについては、議題4で

太田川産アユ・シジミの資源再生懇談会について

○平成31年度以降の運営について

・短期・中期的な方策に基づく取組の報告、長期的な方策の具体的な進め方を議論する。

・懇談会と水管理部会を統合。

・広島市が事務局を運営。

・懇談会を年1回、開催。

→ 上記の内容を考慮して、平成31年度予算要求した。

→ 予算を反映した上での最終的な方針は、議題4で